

日本語のレトリック

~新时代日语系列~

日语修辞法

【日】平山 崇 编著

！以实际应用为重点！

理论简明

系统全面

举例丰富

日语原味



南京大学出版社

日本語のレトリック

日语修辞法

【日】平山 崇 编著

「以实际应用为重点」

理论简明

系统全面

举例丰富

日语原味

南京大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语修辞法 / 平山崇编著. —南京: 南京大学出版社, 2011. 2

(新时代日语系列)

ISBN 978-7-305-07956-6

I. ①日… II. ①平… III. ①日语—修辞—教材
IV. ①H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 256948 号

出版发行 南京大学出版社
社 址 南京市汉口路 22 号 邮编 210093
网 址 <http://www.NjupCo.com>
出 版 人 左 健

丛 书 名 新时代日语系列
书 名 日语修辞法
作 者 (日)平山崇
责任编辑 舒 欣 编辑热线 025-83596997

照 排 南京玄武湖印刷照排中心
印 刷 南京人文印刷厂
开 本 787×960 1/16 印张 26.25 字数 467 千
版 次 2011 年 2 月第 1 版 2011 年 2 月第 1 次印刷
ISBN 978-7-305-07956-6
定 价 46.00 元

发行热线 025-83594756
电子邮箱 Press@NjupCo.com
Sales@NjupCo.com(市场部)

* 版权所有, 侵权必究

* 凡购买南大版图书, 如有印装质量问题,
请与所购图书销售部门联系调换

はじめに

本書は日本語学習者に送る、レトリック(rhetoric、修辞)への招待状である。

この書き出しの文がすでにレトリックであって、本書に対する筆者の6000度の情熱が皆さんに伝わることと思う。

ところで、レトリックとは何だろうか。

百聞は一見に如かず。次の新聞記事を見て欲しい。

ボルト 異次元

[illegible]

世界記録

- 2009 年 8 月 16 日、陸上世界選手権の男子 100メートル決勝で、ウサイン・ボルトが9 秒 58の世界新記録を出した。人類初の9 秒 50 台であり、またボルト自身が保有する100メートル走の世界記録 9 秒 69を0.11 秒も更新している。
- 翌日、北海道新聞はこの“事件”の見出しを「ボルト 異次元」とした。ボルトが成し遂げた快挙を驚異的であり想像を絶することとして「異次元」と形容しているのである。正式な文なら「ボルトの速さはまるで異次元

並だ」となるであろう。しかしこれでは見出しとしては長すぎる。そこで「ボルト 異次元」としたわけだが、結果として短くなったばかりか、印象も強烈になった。このレトリックは、二つの名詞「ボルト」と「異次元」を提示する、名詞提示である。

痛みに、 どストライク!



- これは医薬品メーカーである興和株式会社の製品「バンテリン」の広告で、体の痛む部位に塗ったり貼ったりするものである。
- さて、「痛みに、どストライク!」のストライク(strike)とは何だろうか。野球のストライクゾーンには規定された範囲がある。投手はボールをそこへ投げて、かつ打者に打たれないとき、ストライクを取ることができる。ボウリング(保齡球)のストライクは、10本すべてのピンを倒すことだが、そのためには絶妙な位置にボールを投げなければならない。
- 試合を有利に進める上で最も効果的な場所に投げるのがストライク

なのである。広告商品のパンテリンは、まさに痛む箇所に狙いを定め、その痛みを消すわけだ。ここに、球技上のストライクとの共通点を見出すことができる。これはレトリックの隠喩である。

- さらに、「どストライク!」は、二つの強調点がある。一つは「ど」であり、もう一つは「!」である。これを強勢法という。



- 株式会社小樽シーフーズ海商グループという海鮮を扱う会社の広告である。いちばん上のフレーズは、「年に一度の激しすぎる爆売サービス!! 激しすぎだ~!!」となっている。真中左は「爆売伝説」、下は「大刺身爆売大会!」である。
- 「激しすぎ」と「爆売」という語句の繰り返しが目に付くだろう。これは**疊語法**というレトリックで、強調するときに効果を発揮する。なお、「爆売」という言葉は日本語に存在しないが、「すごく安く売る」という意味で用いられていることは想像できる。大笑いすることを爆笑というから、その類推によって生まれた表現と言える。強勢法の一つ、接頭辞法である。
- 最後に、中段を見て欲しい。マグロ(金槍魚)、カンパチ(紫鰯)、サーモン(鮭魚)など各種海鮮が所狭しと並べられている。当店では多くの海鮮を売っていますよという主張で、列挙法である。



これら三つの記事・広告はいずれもレトリックによって誇張表現されている。しかし通常の何気ない表現にも、実はレトリックが潜んでいる。例えば、

- 本を読む。

これはごく普通の表現で、ここにレトリックがあるなど誰も思わないだろう。しかしよく考えてみると、読む対象物はあくまでも文章であり、もっと厳密に言えば文字なのである。だから「本を読む」というのは本来的に正しい言い方ではない。しかし本という物の中に、文字・文章があり、両者の存在が隣接している。だからこそ、「本」で「文字・文章」を表す言い方が可能になるのだ。これは換喩というレトリックである。

次は諺を見てみよう。

- 昨日は人の身、今日は我が身

これは「他人に起きた災難がいつ自分に起こるかわからない。人の運命は予測しがたいものだ」という意味を指すが、ここで問題にするのは意味ではなく諺の構造だ。すなわち前の句と後の句が、昨日—今日、人の身—我が身、で対照になっている。さらに文字数も一致する。これは対句法と呼ばれるレトリックである。

このようにレトリックは各種語彙、慣用句、諺、日常会話表現と網の目を張り巡らすかのように多方面に潜んでいる。レトリックが文学作品においてのみ使用されるものだという誤った認識は日本語学習の大きな障害となる。むしろ積極的にレトリックを理解し、レトリックという観点から日本語を捉えなおす姿勢が求められよう。

レトリック学習の意義は以下の四つに集約される。

- (1) 文学の観賞
- (2) 読解と作文
- (3) 語彙、慣用句、諺の理解
- (4) 会話の理解と応用

(1) は言うまでもなかろう。レトリックは登場人物の心理や物語の展開に大きく関わっており、これを知ることが文学作品をより深く理解することに繋がるのだ。

また、レトリックが文学以外の文章、例えば散文、説明文、感想文、論文などにも使われている以上、レトリック学習は読解や作文にも有益な知識と技術をもたらす。

多義語や慣用句は日本語学習者が困難を覚えるところだが、これもレトリックに基づいて論理的にその体系やメカニズムを理解することができる。

レトリックは会話にも姿を表す。詩的なレトリックは実用性はないが、会話を豊かにする。また相手の真意を把握しながら会話を進めていく上でも、レトリックは有用な知識となる。



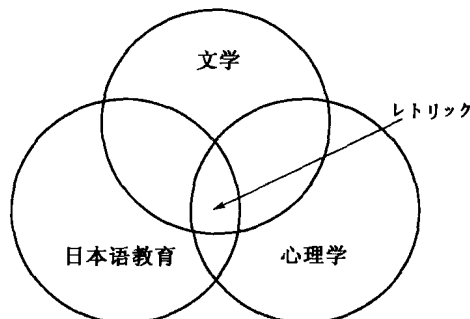
なぜ私がレトリックの本を書くのか。これについても触れなければなるまい。まずレトリックの三つの関連分野について整理しておきたい。

一つ目は文学である。詩的言語としてのレトリックがもっとも生まれるのは文学という土壌である。特に小説は、各種レトリックを最も表現しやすいジャンルである。

二つ目は心理学である。レトリックは言語表現である以上、話者(書き手)の心理・情緒・情動と深い関わりを持つが、心理学はまさに人間の感情と言葉との関係を科学的に解き明かす学問である。

三つ目は、日本語教育である。レトリック表現が日常言語化している以上、日本語教育と無関係ということはいえない。つまり現場の教師が日本語を教えるとき、同時にレトリック表現をも教えていることになる。ただしそれはあくまでも無自覚的なものであり、レトリックの名称も理論も教えられることはないのであるが。

さて、これら三つの分野が重なるところにレトリックが位置する。図で示すと、上のようになる。



私は18歳から小説を書き続けてきた。現在36才であるから、人生の半分を小説とともに過ごしてきたことになる。小説を書くことはレトリック表現を駆使し、また創造する営みでもある。次に、私は大学で臨床心理学を学び、精神病院で心理士(心理医学生)として勤務した経験があり、職を離れてからも心理学に関心を持ち続けてきた。最後に、2003年から現在までの七年間、私は中国において日本語教育に携わってきた。

レトリック関連分野と私の経験領域との鮮やかな一致——ここに私は本書を執筆する使命を見出す。そして、もしも本書が、中国の日本語学習者に何らかの貢献ができるなら、望外の幸せである。

2010年8月 蘇州にて
平山崇

本書の構成

<第1部 レトリックの体系>

一つのレトリックにつき、その表現可能性を追求し、豊富な文例を提示した。まず筆者自身の考案によるレトリック表現を紹介し、そのあとで実際の日本文学作品から引用した。作家数は約70人にのぼる。国民的作家と呼ばれた夏目漱石、ノーベル文学賞作家の川端康成、その他、芥川竜之介、三島由紀夫など日本文学史に名を残す著名な作家から、娯楽系小説の新人作家まで、幅広く集めた。

文例の内容をまとめると下のようになる。

- 語句、文、文章
- 会話
- ショートショート(超短篇小说)
- 作家の作品

また、一つのレトリックの項目に対し、それと関連するレトリックを合わせて解説した。例えば「漸層法」の項目を見ればお分かりいただけると思うが、「その他のレトリック——反漸層法」とある。これは反漸層法を独立した項目として立てるよりも、関連性の強い漸層法に含めたほうが理解しやすいという配慮による。

本書では合計約100種類のレトリックを四つの観点から分類した。いずれの分類でも、各レトリック間の意味や構造が近い順に配列してあるので、辞書的に引くという目的以外は、上から下へと順に読んでいくことをお勧めする。

1. 意味作用

彼女は人であり、花は植物である。この異なるカテゴリーに属する両者を結びつけ、「彼女は花だ」と言ったとき、新しい意味が生まれる。この「花」はもはや植物ではなく、華やかさ、美しさ、可憐さをもった微笑ましい抽象概念である。この現象を転義と言うが、本節では転義を中心に、言葉の文字通りの意味とは異なる意味を生成するレトリックを解説する。



2. 表現の形態・構造

「世界は滅亡に向かい、人類は破滅に向かう」と言ったとき、前後の句において、世界—人類、滅亡—破滅、という対応が認められ、意味も類似し、字数も同じであるから、これは平行法と分類される。レトリックの中にはこのように一定の表現形式・構造を持つものがある。本節ではこの形式という観点からレトリックを解説する。

3. 思考様式

人が言語表現するとき、重要な箇所は細かく具体的に繰り返し述べるが、重要でない箇所は簡略化して話す。これは現在感というレトリックだが、思考と言語の表現方法は緊密に結ばれている。だから人はAという思考を表現するにはA'のレトリックを選び、Bの思考にはB'のレトリックを選ぶのだ。本節では思考表現としてのレトリックを解説する。

4. 視聴覚性

「十字路」は道路が十のように交差していることから生まれた言葉である。「十」という視覚的要素を利用して交差点を描写しているわけだ。これを字喩という。また、ガラスが割れた音を「ガチャン」と表現するのは、音の聴覚的要素を発揮させているわけである。これを擬声語という。本節では、このような視覚・聴覚に基づいたレトリックを解説する。

<第2部 レトリック応用分析>

レトリックを用いて六つの項目を分析した。具体的には、日本語の語彙、慣用句、諺、広告、会話、古典文学である。特に語彙、慣用句の分析には、認知言語学の理論を援用した。これは現代の言語学の一大潮流をなすもので、人間の心と体における経験を基盤とした認知活動を重視し、これをもとに言語的理論を構築している。以前にはうまく説明できなかった言語現象も論理的に解説することができる優れた言語学である。認知言語学的立場からの英語研究は前からあったが、日本語研究は遅れている。本節は、研究成果を日本語教育に応用するものである。



＜コラム 中国語の日常言語レトリック＞

中国語の会話や文章の中には多種多様なレトリックがある。それを分析し、かつ日本語表現と比較して考察する。

＜附録：レトリック名称比較表＞

巻末に附録として日本語・英語・中国語のレトリック名称比較表を付けた。特に英語の辞典にはレトリックについて簡単な説明と例文が載っているので、本書の説明がわかりにくかったら、ぜひ英語辞書を引いてみて欲しい。

ところで、レトリックは各言語に存在するものだが、各言語の構造上、また表現の習慣上、ある言語に存在するレトリックも、他の言語には存在しないことがある。この場合、適した訳語がないため、完全な名称比較表を作ることは不可能である。また筆者の力量不足で訳語がわからないものもあった。ご了承頂きたい。



レトリックに対する見解

＜レトリック三段階＞

本書のはじめに、筆者のレトリックに対する考え方を明示しておきたい。「レトリックは文学特有の文章上の美的効果」という一般的な認識があるが、これは完全に誤りである。結論から言えば、文学上のレトリックより日常的な言語のレトリックのほうがはるかに多いのだ。言葉の世界で生きる我々は常にレトリックに包囲され管理されているという事実を目を向けることから、レトリック学習は始まる。

本書では便宜上、日常的に使われるレトリックを「日常言語レトリック」、主に文学上の斬新さと独創性の香が漂うレトリックを「詩的言語レトリック」と呼ぶことにする（より簡略化するために、前者を日常—Dailyから“Dタイプ”、後者を詩的—Poeticから“Pタイプ”としてもよい）。

レトリックには主に意味に訴えかけるもの、構造を利用するもの、文字の形を使うもの、そして音声的特徴を生かすものがあるが、日常言語・詩的言語レトリックの両者に関わるのは意味作用のレトリックであり、主に隠喩、換喩、提喩の3つとなる。この中に直喩が入らないのは、直喩が「ような」や「みたいな」などの指標を必要とし、言葉自体の意味的变化を引き起こさないからである。これは隠喩と比べればよくわかる。

〔直喩〕 宿題が山のようにある。

〔隠喩〕 宿題の山だ。

もしも宿題に関係するノートや教科書、作文を机の上に積み上げたら、その高さで大きさが意識されるであろう。それが山のようなのだと言うのが直喩である。このとき、山はあくまでも山の意味であり続ける。

隠喩はそうではなく、宿題自体が山を作っていると表現する。日本人のこのような表現の繰り返しにより、「山」は“物が高く積み上げられた状態”を指すようになり、「山」の派生的意味として、辞書に登録されるようになった。つまり隠喩によって山に転義が起こったのである。

さて、レトリックには3つの段階がある。一段階の「非レトリック」はその言語表現の中にいずれのレトリックも認められないものである。二段階、三



段階は先述した日常言語レトリック、詩的言語レトリックがそれぞれ該当する。

一方、言語表現に対する人間の認識には、レトリックであるか否かの二段階しかない。それを下記の表にまとめた。

レトリックの段階	文例	人間の認識
1. 非レトリック	字を読む。/パンを食べる。	レトリックではない
2. 日常言語レトリック	本を読む。/りんごを食べる。	
3. 詩的言語レトリック	世界を読む。/大空を食べる。	レトリックである

文例の「りんごを食べる」が日常言語レトリックであることに違和感を覚えるかもしれない。りんごを構成するものは、果肉、種、蒂などである。このうち人が食べるのは果肉であり、蒂や種、りんごの中央にある硬い部分は食べない。だから厳密に言うならば「りんごの果肉を食べる」となるのである。つまり、全体で部分を表す換喩がここに働いているわけだ。

「世界を読む」は誰もが詩的——つまりレトリック的な表現だと感じることだろう。しかし時代が流れ、「世界を読む」が日常的に使われるようになったら、これは日常言語レトリックと化す。日常か詩的かは固定しておらず、流動的である。

また、レトリックである / ではない、の区別には個人差がある。感受性豊かな人は「タクシーを拾う」という日常的な表現にレトリックを感じるかもしれない。それは言葉の深層的な理解の下地がすでに出来ていることを示す。本書では二段階、三段階のレトリックを広く扱っているのだから、これを基に、レトリックへの認識の範囲を広げ、日本語学習を効果的に進めて欲しいと思う。

＜日本語教育におけるレトリック導入の意義＞

「切る」という動詞は多義語で多くの意味を持つ。それらを一つひとつ別個に覚えるのと、レトリックによって原義と他の語義を有意味に結びつけて理解するのと、どちらが学習効果が高いだろうか。答えは目に見えているであろう。第二部「レトリック応用分析」の語彙分析ではその実践例が載せてある。学習者はこの方法論を参考にして、多義語を分析し、自分なりに理解を進めることができる。

文章においてレトリックは小説はもとより論文にも多用されている。定義

法、括約法、数装法などがその代表例となる。本書で得た知識をもとに日本語の文章を読めばより深く意味を理解することができよう。また文章を書くときにも、レトリックによりわかりやすい表現・構成が可能となる。

さらに、日本人の会話では迂言法、暗示的看過法、緩叙法、省略法が多用されるが、その知識があれば日本のテレビドラマの会話もよくわかるし、実際の会話にも応用できる。

また、レトリックの一つ「言葉遊び」を利用すれば、楽しく日本語表現の練習ができる。楽しさは学習を続けていく原動力にもなる。

以上から、日本語教育にレトリックを導入する意義がお分かりになると思う。学習者は本書を熟読した上で、日本語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを実践して欲しい。教師が授業で教えるには具体的な方法論が必要になろう。課外授業としてレトリックを体系的に教えたり、読解授業の教科書・参考書として本書を使ってもよい。会話授業なら、各種文型を教えるときにレトリックを絡めて説明すればよい。

<文 例>

本書では一つのレトリックにつき多数の文例を用意したが、そこには基本的にそのレトリックしか含まれていない。例えば隠喩の文例なら、

- ・ 彼はサボテン(仙人掌)だ。

というふうに、隠喩のみがあり他のレトリックはない。これによって、当該のレトリックのありのままの姿を見ることができる。

しかしレトリックによっては、他のレトリックと併用することでより自然な表現になるものもある。あるいは、併用によって、よりそのレトリックの本質を発揮しやすくなる。

- ・ おお、来たか。重役出勤だな。偉くなったな、お前も。

これは、教師が遅刻してきた学生に向かって言った言葉である。「おお」は感嘆詞であり、詠嘆法の指標である。後ろの「重役出勤だな」や「偉くなったな」は皮肉法である。両者が相互に働き、一つの自然なレトリック表現を生み出している。筆者の感覚では、この文章において皮肉法がメインに働き、詠嘆法はサブとして働いていると思うが、そう感じない人もいるかもしれない。



- 雪だ、先生の心は。闇だ、私の心は。

前文を見ると、まず「先生の心は雪だ」の倒置法がある。次に「心＝雪」とする隠喩がある。後ろの文も同じく倒置法で、「心＝闇」も同様に隠喩だ。さらに、前は「心がきれいで純粋だ」というプラスの意味があり、後ろは「心が黒くて恐ろしい」というマイナスの意味がある。各文中の品詞も共通し、字数もほぼ同じで、意味も対照的なので、これは対句法である。よって、この一続きの表現には、倒置法、隠喩、対句法という三つのレトリックが同時に使われていることになるが、この中で最も効果が強いものを選ぶことは難しい。筆者には、どれも均等に文章上の効果を発揮しているように思えるが、ある人は倒置法が最も印象的だと感じるかもしれないし、ある人は対句法が最も効果的だと思うかもしれない。

このように複合的なレトリックの場合、感じ方に個人差が発生するので、効果の大きさを客観的に測定し順序付けることは困難である。もちろん心理学実験によって、多数の被験者から実験データを取り、統計的検定し、何がもっとも強いレトリックかを明らかにすることもできるが、それは本書の趣旨から外れることになる。

以上を考慮して、本書では下の規則に基づいて文例を設定した。

1. Aというレトリック解説において、提示する文例は、基本的にAしか含まない。
2. Aというレトリック解説において、文例にABCと複数のレトリックがある場合でも、あくまでも中心的なものはAである。ただしそれは筆者の感覚による。

＜定義と名称＞

ところで、レトリックの数は膨大で、200 以上もあると言われている。しかし表現間の小さな違いを見極め、独立したレトリックとして認め、いたずらに数を増やすのは、文学研究としては価値があろうが、日本語学習としては不利益である。

筆者の立場は、一つのレトリックに弾力性を持たせ、言語表現が多少定義からはみ出してもそこに分類する、というものだ。結果としてレトリックを約100 種類に整理でき、そのぶん個々のレトリックの特徴が際立つこととな



った。

また、日本語表現ではほとんど目にするものがないレトリックは本書でも扱わない。学習者にとってそれは無駄な知識だからだ。

レトリックの定義は研究者によって異なることがある。例えば、ある立場では換喩と提喩を分けるが、ある立場では換喩の中に提喩を組み入れている。さらに一つのレトリックが複数の名称を持つ場合もある。下記は一例だが、例えば隠喩は暗喩とも呼ばれることを示す。研究者によってレトリックの呼称が異なるわけである。

- 隠 喩—暗喩
- 設疑法—疑問法
- 兼用法—異義兼用、双叙法、兼用語法
- 緩叙法—曲言法、包喩、謙喩、情化法、消極法

定義といい、名称といい、レトリックの世界は実に混沌としている。この不統一性はレトリックが一つの学問として成熟し切っていないことを示すものであろう。ここで筆者は日本語教育という原点に立ち返り、学習者がレトリックを秩序立てて理解できるような方向性で、定義と名称を決定することにした。

定義は、レトリック研究第一人者の佐藤信夫、野内良三の著作を重視するとともに、一つのレトリックに個別性を持たせ他と重複しないように設定した。名称は野内の採用するもの、およびサイト「ふきだしのレトリック」においてメジャーとされているものを考慮して選んだ。

最後に、レトリック(rhetoric)は修辞(しゅうじ)、文彩(ぶんさい)とも訳されるが、本書では「レトリック」という語を使うこととする。